学　校
だより
とうえい
第２６－８号
平成２６年１２月１６日
尾張旭市立東栄小学校

新しい年に向けて

校長　松　本　浩　一

平成２６年もあとわずかになりました。この時期になると、一年の様々な出来事が明確に思い出されるのは、反省の念からなのか、日々が変化に富んで充実していたからなのか、何となく不思議な感じがします。学校は年度のサイクルですから、まだ学校としての一年間が過ぎたわけではありませんが、暦の節目というのは、心情を揺り動かす特有の季節感があるような気がします。

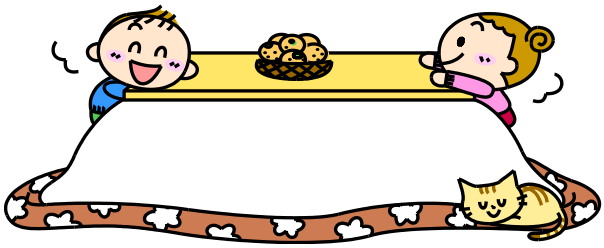
まもなく冬休みです。年末年始の慌ただしさのなかで、あっという間に終わってしまいそうです。

そこで、あまり欲張らず、「これだけは！」という計画を立て、やり通したという実感を味わうことが大切だと思います。また、家族の一員として、家の仕事も役割を決めて、ぜひ実行させてください。

さて、「年忘れ」という言葉があります。抱えていたストレス、引きずっていた苦しさを忘れて、身軽になることができたらどんなにいいでしょう。

でも、楽しかったこと、うれしかったこと、汗を流してがんばった記憶、つらさを自力で乗り越えた思い出、小さいけれど感じた確かな進歩、どれも大切で、いつまでも忘れずに記憶にとどめておきたいものです。

「年忘れ」の一言で全てを忘れ去ってしまうのでなく、大切なことを自分の記憶にしっかりとどめる、そして１年を振り返り、新しい年に向けて、決意や目標を決めることも冬休みにぜひやってほしいことです。



最後になりましたが、皆さまにとりまして、平成２７年がこれまでにも増して、よりよい年となりますよう祈念いたします。

どうぞよいお年をお迎えください。

道徳講演会は介助犬を招いて

今年の道徳講演会は、長久手市にある日本介助犬協会の介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」から、訓練士の方お二人をお招きし、「思いやりの心を持とう」をテーマに行いました。現在、国内で活動する介助犬（手足の不自由な人の補助をする犬）は７２頭しかおらず、愛知県にはわずか４頭だそうです。全国で介助犬によって生活の改善が見込まれる人は１万５千人。「シンシアの丘」で訓練中の介助犬候補は１０頭とのことです。３歳の雄の介助犬「カナン」の演技を見せてもらったり、代表の児童が「カナン」に指示をして、鍵を拾ってもらったり、携帯電話を探してもらったりする体験もしました。子ども達からは感嘆の声が上がりました。

市内の小学校では唯一の肢体不自由児童受け入れ拠点校である東栄小学校ですが、自分たちもいつ、障がいを負う身になるか分からない…という意識にはまだ至らない子どもも少なくありません。これを機会に、少しでも障がいに対する理解が深まればと思います。

１億円の札束！租税教室

今年も税理士さんに来ていただいて、６年生が「租税教室」を受講しました。税金の流れや使われ方の説明を受けても、いまひとつピンとこない子ども達でしたが、税金がなくなった世界を描いたアニメを見て、税の必要性がわかったようでした。

小学校の校舎を建てるのに１１億円かかると聞いてびっくりした子ども達。「これが１１個」と取り出されたのが１億円の札束！もちろん見本ですが、大きさも重さも本物同様とあって、そのずっしりとした重みに、みんな歓声を上げたり溜め息をついたり…

来てくださった税理士さんのお一人は、なんと前ＰＴＡ会長の溝口さんでした。ありがとうございました。

車で出る時に一時停止を

自動車が出入りする東栄小学校の北門。左右には木が生い茂り、決して見通しがいいとは言えません。特に右手（東側）は坂になっていて、歩道を走ってくる自転車のスピードが、ついついのってしまいます。左右が見えるところまで車首をつき出すと、そうした自転車や通行人と衝突する恐れがあります。

そこで、歩道の手前に、白い停止線と「止まれ」の文字を書いていただきました。自動車でお越しの際、帰られるときは一度この位置で停止してから、左右の確認ができるところまでゆっくりと前進してください。